

環境掲示板

植物観察会

主催 野川公園緑の愛護ボランティアの会

日時 3月7日(日) 13:00~14:30

4月4日(日) 13:00~14:30

集合 野川公園自然観察センター前

申込 直接会場へ 参加費 無料

問合せ 0422-31-9033

野鳥観察会

主催 野川公園緑の愛護ボランティアの会

日時 3月13日(土) 9:00~12:00

4月10日(土) 9:00~12:00

集合 野川公園自然観察センター前

申込 直接会場へ 参加費 無料

問合せ 0422-31-9033

Tシャツからエコ布ぞうり作り

主催 ごみ対策課

日時 3月18日(木) 13:00~15:45

場所 三鷹市リサイクル市民工房

編集後記

3月6日(土)には、第3回みたか環境懇談会を開催する。今回は、「湧水」と「野川」を取上げた。近年の都市化による緑の土地の減少などにより、雨水の地下への浸透は減ってきていると見える。三鷹市や近隣の市でも、雨水浸透マスの設置に熱心に取り組んできている。でもその効果がどこで出てきているのかは、地下水の話なので、把握は容易ではない。効果は、どうも広域的にみていくしかないようだ。(安達)

対象 特になし

定員 8名(多数の場合は抽選)

料金 無料

申込 往復はがきで3月11日(木)

必着でごみ対策課へ

問合せ ごみ対策課 内線 2535

第57回井の頭かんさつ会

主催 井の頭かんさつ会

テーマ「樹形」(仮タイトル)

日時 3月22日(月・祝日)10:00~12:00

事前に申込みが必要

参加費 300円

申込み 大原 kapock@parkcity.ne.jp

HP URL <http://www.kansatsukai.net>

封筒からカード入れ作り

主催 ごみ対策課

日時 3月24日(水) 13:00~15:00

場所 三鷹市リサイクル市民工房

対象 特になし

定員 8名(先着順)

料金 無料

申込 往復はがきで3月17日(水)

必着でごみ対策課へ

問合せ ごみ対策課 内線 2535

発行:みたか環境活動推進会議

(愛称 みんなの環境)

連絡先:三鷹市環境対策課

電話 0422-45-1151 内線 2523・2524

E-mail: kankyo@city.mitaka.tokyo.jp

本誌は、市役所、市政窓口、図書館、コミセンや市のHPから入手できます。

みたか環境ひろば 第22号

2010年3月1日発行

減農薬で努力する農家



トラック一杯の落ち葉と岡田裕一さん

JA 東京むさし三鷹地区の青壮年部は会員約100名で、営農部会、組織部会そして農政部会から成り活動しています。平成21年4月より部長として三つの部会を纏めている岡田裕一さんは、北野4丁目の吉祥寺通りをはさんだ東側に自宅があり、西側に広がる60アールの畑で農業を営んでいます。

夏はきゅうり、なす、トマト等、秋から冬にはブロッコリー、カリフラワー、白菜、大根等を作っています。野菜を作るにあたり出来る限り減農薬に努めています。参考になる所には見学に行くなど、毎年試行錯誤で野菜作りをしています。

堆肥には落ち葉、稲藁を使います、落葉は、国際基督教大学から10日ほど草刈をする代わりに、トラック20台分ぐらい貰って来ます、稲藁は、新潟から取り寄せます。昨年は、米ぬかを使って夏果菜の苗を作りました。苗作りにも苦労が多いようです。油虫より小さいハイマダラメイガという害虫は、芽が出て双葉が出る頃、芽を食べ芯に入ると苗は育たず、だめになってしまい気が抜けないそうです。

今後も更に新しい方法があれば色々

やってみると、力強い抱負を、語ってくれました。生産した野菜は農協の直売所とCOOPとうきょう牟礼店に出されています。そこでCOOPとうきょう牟礼店の野菜担当の関さんに、岡田さんの野菜について聞いてみました。間にバイヤーが入り、開店10時迄には岡田さんからその日の野菜が入ります、量の関係で岡田さん専用のコーナーを設けることは出来ませんが、入る野菜は申し分のないもので、お客さん一人ひとりに聞いたわけではないが、自信を持って販売できる、と言っていました。

農業は、国土の保全、環境の保全、そして食料の供給と、果たす役割は多くあります。三鷹の農家に期待するものも大きいものがあります。(森)

Y ショップ油屋三鷹店の環境活動

～ 1 8 年間、地道なエコ活動を続ける店主浅野良一さん～

2月8日午後、Yショップ油屋三鷹店（牟礼2 - 13 - 45）を取材で訪問した。「いらっしゃいませ」と明るい声が迎えてくれる。店主の浅野良一さんは、平成4年東京小売酒販組合青年部の会長をされていた時に国税庁の中央酒類審議会リサイクル部会の臨時委員を2年間務めたことがあり、エコに目覚め、以来、「チームマイナス6%」にも参加し、地道な活動を実践してこられた。

マイバッグ運動、簡易包装、リサイクル製品の販売、量り売り販売などを実施しているの、平成20年5月には三鷹市の「ごみ減量・リサイクル協力店」に認定された。

店の入口には、環境省のポスターやごみ減量・リサイクル協力店のステッカーなどが貼ってある。外には、ビールの空瓶が沢山積んである。もともと酒屋であったので、昔から、ビール瓶の回収はやってきているとのこと。その他にも、焼酎などの量り売り、再生紙利用の芯のないトイレットペーパーの販売と、いろいろなことを実施されている。

レジ袋の使用量は、日本全国では大変な量になる。お店から自宅まで遠くないお客様には、レジ袋は家に帰れば、ほとんどはごみになり、「1分間の命」である。「ポリ袋いりますか？」と繰り返し聞くことと、「ポケットにポリ袋を入れ



お勧めのリサイクル製品を前にした浅野良一さん



入口には環境省のポスターが貼られているので、「ごみ減量・リサイクル協力店」として掲示で訴えることで、お客様が気づいてくれるように努めておられた。根気のいる活動であるが、お客様に気づいていただけた時には、本当によかったと感じるそうです。そのご努力は大変なものだ。「子供の頃からの習慣を作るため、家庭や学校での教育が大切となる。こつこつ毎日積み上げるしかない」と強調されていた。（安達）

野川の伐採樹木調査に参加

東京都では、ゲリラ豪雨が多発していることから、野川でも、昨年度から、河川敷の樹木の伐採を始めている。本年度も、野川の野水橋から清水橋の区間で行いたいとの意向を受けて、昨年12月15日午後、野川の伐採樹木の現地調査が地元住民3名、野川流域連絡会委員5名と東京都北多摩南部建設事務所職員5名で行われた。耐風性、根っこが掘られていないこと、適度の間隔があることなどを考慮して、クワ4本、サクラ1本、クルミ1本を残すことになった。今後も状況に応じて伐採しなければならないこともあるかも知れないが、まずは残す



野川の伐採樹木調査の参加者たち

ことになった。今後もこのような話し合いの場がもたれることを期待したいと思います。（安達）

市役所の窓：「私とエコライフ」

昨年の12月、デンマークのコペンハーゲンで「国連気候変動枠組み条約第15回締約国会議」、いわゆるCOP15が開催された事は記憶に新しい。京都議定書に定めのない13年以降の国際的な温暖化対策の合意形成が目的だったが、先進国と新興国との間で議論は平行線を辿り、大した成果を残せなかった。「地球全体の問題なのに・・・」と思いつつ、「人間のエゴはいつの時代も変わらないなあ」と痛感しました。とはいえ、かくいう私も、最近では寒さに負けて、お風呂に入る

時は予備暖房をバンバンに効かせていますし、帰宅時に部屋が暖かいように床暖房をタイマーセットしている始末。庁内では20度設定でエコに貢献しているつもりですが、自宅では自らのエゴが全開。庁内と自宅でオフセットした二酸化炭素は“排出権(!)”として誰も買い取ってくれる訳でもなし。心を入れ替えて、食欲の秋で蓄えた「脂肪」でこの冬を乗り切ろうと思う今日この頃です。

生活環境部生活経済課 井上 新